

活動報告書

報告者氏名：魚坂 隆 所属：広島県立広島特別支援学校 記録日：平成25年 2月19日

◆状況報告◆

学校所有も含め16台のiPadを活発に活用しています。学習内容はもとより、肢体不自由のある児童生徒の姿勢や操作性に合わせて、斜面台、滑り止めシート、取り付けアーム、入力スイッチインターフェイスなども工夫しています。

◆取り組みの様子・写真◆

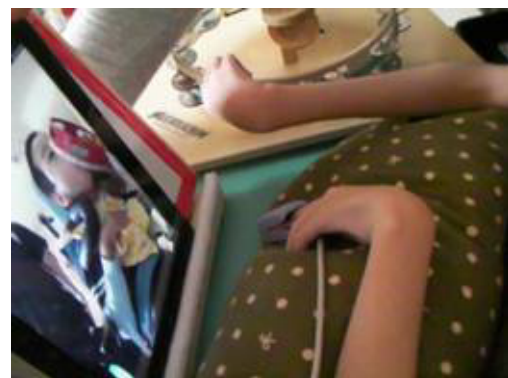
① カメラを活用した取り組み

肢体不自由特別支援学校、高等部1年での取組です。主体的に楽しみながら活動することを目標に、校内の写真撮影に取り組みました。具体的には、iPadをスイッチ操作できる自作支援機器を使用し、カメラ撮影に取り組みました。iPadで、アプリ「カメラ」のシャッター部分をスイッチで操作できるように設定しました。それらを、車いすに「どっちもクリップ」2個でiPadを固定、スイッチを手で操作しやすい位置に置き、校内を回って本人が撮影したい場所で撮影を行いました。これらにより、対象生徒は、通常のデジタルカメラに比べて大きな画面を見ながら、自身の手の動きに合わせて撮影することができ、また、撮影後は、撮った写真を自分でスイッチ操作しながら順に見るようにしました。ストレスなく上肢を操作できること、画面が大きく見やすいこと、自らシャッターを押せ、自ら閲覧もできることなどから、意欲的に校内を撮影しながら回り、積極的に自分の撮影した写真を見ていました。興味・関心の一層の広がりも期待できそうであり、卒業後の仕事や余暇につなげていってほしいと思っています。



② スカイプを活用した取り組み1 ～訪問生と学級をつなぐ～

肢体不自由特別支援学校、中学部の訪問教育での取り組みです。学習の目的のよりよい理解と意欲的な学習参加をすすめるため、スカイプを利用し、学校の授業をライブで中継し、朝の会、体育祭の練習、校外学習の事前学習、音楽の授業への参加を行いました。録画動画との大きな違いは、教室とやり取りができることです。特に音楽では、自分の打楽器に画面の中の先生がピアノ伴奏を合わせてくれたり、友達の楽器の音も聞こえたり、拍手が聞こえることなどから、より真剣に取り組もうとする様子が伺えました。スカイプ中は、自然に頭が起こして画面に注目し、友達の活動の様子をリラックスして見たり、逆に画面から聞こえる音に向かって手を伸ばす様子なども見られ、身体の動きに関する内容にも取り組んでいます。何より、教室とつながる



ことで、学習の内容が良く理解され意欲的になりました。特に校外学習の事前学習では、友達と一緒に活動することが良く理解でき、スカイプ終了後の一人学習が意欲的にできました。iPadの画面の大きさは、座位保持装置のテーブル上に置いてみるのに適当であり、無理なく注視の姿勢が取れていると思います。

③ スカイプを活用した取り組み2 ～訪問生同士をつなぐ～

肢体不自由特別支援学校、小学部の訪問教育での取り組みです。訪問籍にある児童は、通常、自宅等で授業を受け、可能な場合、体調等に合わせ登校（スクーリング）しているため、同学年であっても、訪問籍の児童同士が会って交流する機会はスクーリング以外にありませんし、スクーリングで会う機会も非常に限られます。そこで本取り組みでは、訪問籍の児童同士が、お互いをしっかり意識できるよう、2台のiPadを用いてスカイプを利用し、訪問籍児童同士の自宅間で学習をすすめました。対象児童らは、これまでも、学校



とのスカイプを何度か取り組み、同学年の児童との朝の会などのやり取りを楽しみにすることができています。今回の活動により、児童らは、普段一緒に活動することができない友だちとの合同授業により、互いを改めて意識できる機会になったのではないかと思います。iPadでは、画面サイズやカメラの位置により、相手の活動の様子が詳しく伝わらない部分もあったりしましたが、おおまかな相手の活動の様子を知ることができました。また、普段、iPadのビデオ保存機能を利用して、友達の授業や行事の様子を見たりしていますが、同時間帯で同じ活動を共有することができたことは大変意義が深いことだと考えています。